

良好な日韓関係の構築をめざす社会科教育からのアプローチ

氏名：●● ●●

所属：津和野町立木部中学校

1. 課題意識

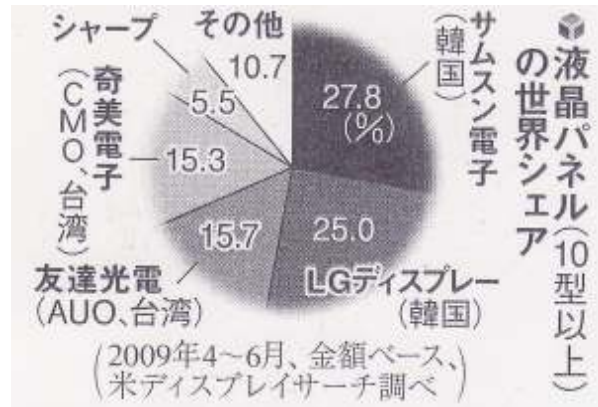
(1) 訪韓前に抱いていたもの

① 古代国家「日本」と「東アジアとの関わり」

今年4月、NHKで3年間にわたる大型プロジェクト番組『プロジェクト JAPAN』がスタートした。多彩な番組が用意されているが、中でもETV特集のシリーズ『日本と朝鮮半島 2000年』は、古代から近代に至る日本と朝鮮半島との関わりを10回にわたって描こうとする興味深いプログラムである。毎回欠かさずに視聴しているが、古代の「日本」が朝鮮半島をはじめとする「東アジアとの関わり」の中で誕生していく様子が実によく描かれている。新学習指導要領（平成20年版）においても、この「東アジアとの関わり」について言及されているが、この視点を実際の授業の中でどのように具現化していくのかが課題の1つであることを感じている。

② 国際競争におけるライバルとしての韓国

本研修へ出発する前日、NHK『経済ワイド vision e』を視聴する機会があった。番組の中では、EUとの間でFTA（自由貿易協定）の仮調印をおこなうなど、近年世界各国（地域）との間で次々とFTAを結ぶ韓国の姿が映し出されていた。2つの国家（地域）間でFTAが締結されると、将来的には関税の障壁が取り払われるため、この国家（地域）間での自由貿易が促進されることになる。すなわち関税が取り払われた「現代（ヒュンダイ）」



読売新聞 (2009. 10. 17)

の自動車や「三星（サムスン）」の液晶テレビなどが、今後世界中に輸出されることになる。日本では経済界から早期締結を求める声がある一方で、安い農産物が輸入される危機感から農業団体は強く反発している。この反発は、現在政権を担っている民主党のマニフェストをも書き換えさせるほどのものであった。日本における国際競争力や食料の安定供給、農業のあり方など、これからの「国のかたち」を考えていく時、そこに視点の1つとして韓国の姿を加えていく必要を感じた。

(2) 訪韓中のできごとから

① 竹島（韓国名：独島）をめぐる

今年で10年目を迎える本研修は、これまでに200名あまりが参加しているが、島根県の教員として参加するのは私が初めてであった。島根県と韓国、近年避けて通れないのがやはり「竹島（韓国名：独島）」の問題である。3年前、「竹島北方領土返還要求運動島根県民会議」から「北方領土問題現地研修会（根室市）」に派遣された経緯もあり、私は本来「竹島」を含めた領土問題について、教育現場で率先して取り扱うべき立場にあることを自覚している。ただ本研修の趣旨をふまえた時、この話題にふれることを自らタブー視し、韓国へと出発した。

韓国での生活が1週間を過ぎた頃、私は自らがタブーとしてきた認識を揺さぶられる場面に遭遇した。日本による植民地支配に抵抗する「三・一独立運動」の舞台となった「タプコル公園」に出かけた時のことである。門をくぐったとたん、太極旗（韓

国の国旗)を手にした人々が集会を開いている光景が目飛び込んできた。「独島」の集会であった。その後もメディアから「独島」の天気予報が流されたり、切手の図柄に「独島」の写真が取り入れられたりする現実を目の当たりにした。島根県で生活していると、行政やメディアから私たちに届けられる情報は、『「竹島」は日本の領土である』ということだけである。私自身「竹島」について詳細を勉強しているわけではないが、島根県が設置した「竹島問題研究会」の認識に共感すると



「独島」の集会

ころはたくさんある。しかし、『「独島」は韓国の領土である』ことが既成事実化している現状を実際にこの目で見た時、何とも言い難い複雑な思いになった。

悶々とした思いをどうしても抑えきれなかった私は、翌日訪問した水原外国語高校における教員懇談会の席上、タブー視していたはずの話題を自ら口にすることになった。私自身の複雑な思いを伝えた上で、『韓国の教育現場における「独島」の扱い』について質問したのである。日本のメディアではその扱いについて、韓国の民族主義的な教育が強調されることがあるため、私もそういう回答を予期していた。しかし意外にも韓国の先生からは「日韓双方の主張を生徒たちに提供しているほか、日本政府の対応の上手さについても紹介している。」ことなどが語られた。言葉を選んで質問したが、私の意図をくみ取って丁寧に相手方に伝えてくださった通訳の方からは、「自分の思いを押さえ込んであれこれ悩むよりも、表面に出したことが良かったですよ。」という言葉もいただいた。真の日韓交流という意味では、その第一歩だったように思う。

② 被支配の姿を垣間見て

1909年10月26日、韓国の独立運動家である安重根が、ハルビン駅において初代韓国統監を務めた伊藤博文を暗殺する事件がおきた。あれからちょうど100年、ソウルの光化門前にある世宗路には、安重根の巨大な「肖像」と断指血盟によって左手薬指の末節をなくした「手形」がビルに掲げられていた。南山公園にある「安重根義士記念館」にも出かけたが、訪れた人が義士と称される彼の「肖像」に向かって手を合わせ、拝礼する姿が印象に残った。普段の授業の中では、「韓国併合」を扱う時に安重根についても取り上げている。しかし、記念館内の展示品などを見ていて、その取り上げ方の希薄さに気づかされた。乙巳保護条約の締結などに対する義兵活動の具体的な姿を扱うことは、植民地支配に対する「抵抗」の実相を学ぶ手がかりとなりうる。ただ、「伊藤博文は『韓国併合』に消極的であった」ともいわれているため、このことも含め、安重根と伊藤博文という2人の人物の再評価を検討しなければならない。



世宗路に掲げられた安重根

植民地支配に対する「抵抗」という意味においては、やはり「三・一独立運動」についての教材化も検討したい。普段の授業では、「第一次世界大戦後の世界」と称してわずかに1時間の中で「国際連盟」や「五・四運動」などとともに扱う程度である。韓国の中学生在が使用する『国史』の教科書を購入する機会があったが、「三・一独立運動」など日本の植民地支配についての記述量は日本の教科書と比べてはるかに多い。自主研修日に出かけた天安の「独立記念館」には、「三・一独立宣言書」などに加え、その約1か月前に日本で配布された「二・八独立宣言書」も展示されていた。この「二・八独立宣言」は、当時日本で生活していた韓国人留学生たちが作成したもので、「三・一独立運動」を誘発する役割を担ったと考えられている。昨年、明治大学へ行く機会があったが、近くにある「アジア青少年センター」の前に、「二・八独立宣言記念碑」が立てられていたことを思い出した。「三・一独立運動」は、その後朝鮮半島だけではなく、旧満州やロシア沿海州、さらにはアメリカ合衆国の朝鮮半島出身者にも広がったが、日本や世界との関わりの中でこの運動を扱っていくことも考えたい。



二・八独立宣言記念碑

2. 授業実践

(1) 1年歴史的分野

先にも述べたように、今年度は古代国家「日本」が誕生していく様子を、「東アジアとの関わり」という視点をふまえて単元構成を試みた。実際の授業については以下に示したとおりであるが、前掲のETV 特集『日本と朝鮮半島 2000 年』などを編集して視聴したこともあり、生徒たちは朝鮮半島の関わりを認識できたようである。特に唐の軍事力に圧倒される「白村江の戦い」は興味深そうに視聴する姿が印象的であった。

【単元】東アジアの中の古代国家「日本」誕生		
月日	学習内容	映像資料
10月2日	◆ムラからクニへ 金印「漢委奴国王」、邪馬台国、卑弥呼、荒神谷遺跡（斐川町）、加茂岩倉遺跡（雲南市）	
10月7日	◆古墳時代 大仙古墳、埴輪、鏡、玉	卑弥呼とヤマト政権（4分）
10月8日	◆東アジアの中の倭 ヤマト政権、鉄の延べ板、ワカタケル、伽耶、百済、高句麗、新羅	伽耶の鉄（4分）など
10月14日	◆7世紀のヤマト政権(1) 蘇我氏、物部氏、渡来人、聖徳太子、推古天皇、摂政、遣隋使、	蘇我氏と渡来人（3分）など
10月15日	◆7世紀のヤマト政権(2) 大化の改新、中大兄皇子（天智天皇）、中臣（藤原）鎌足、唐、律令、均田制、税制、白村江の戦い	白村江の戦い（2分）など

11 月 2 日	◆古代国家の成立 壬申の乱、天武天皇、遣唐使、富本銭、和同開珎	飛鳥池遺跡（3分）など
----------	------------------------------------	-------------

(2) 3 年公民的分野

経済学習のまとめとして、単元「日本経済の『これまで』と『これから』」を以下のように配当した。本来の計画では「為替」と「貿易」を1時間で学習する予定にしていたが、実際の授業ではそれぞれ1時間かけて扱うことにした。これは、世界各国（地域）との間で次々と FTA を結ぶ韓国の姿などをふまえた上で、生徒たちに「日本の FTA をどうすべきか？」という学習課題を考えさせたかったからである。本校の3年生は女子生徒4名のみであるが、与えられた情報をもとにわずかな時間の中でしっかりと自分の考えをまとめていた。

政治家とかじゃないのでどうすればいいのかよくわからないけど、農業団体の人が反対する気持ちもわかります。ただ、今は不況なので、この状況から抜け出すことも考えなければなりません。どうしたらいいのかわからないけど、普段こういうことを考えることがないので、こうやって考えることって大事だなんて思いました。日本は日本のやり方でやっていけばいいと思います。＜生徒A＞
私は、韓国のようにFTA を結んでいかない方がいいと思います。VTR で農業団体の人の話を聞いたら、「FTA を結んでしまうと日本の農業は成り立たなくなる」と言っていたので、それは結構たいへんなことだと思いました。今は農業をする人も減っていて、高齢化も進んでいるので、日本の農産物が売れなくなるのはとても困ります。＜生徒B＞
私はFTA を結んだ方がいいと思います。日本の工業製品を売れば、日本の国が豊かになります。韓国よりも日本の技術が進んでいると思うから、農業を大切にするよりもFTA を結んで豊かになる方がいいと思います。＜生徒C＞
私はFTA を結ぶことに抵抗があります。経済が発展して工業製品が多く輸出できるかもしれないけど、反対に農産物が売れなくなり、日本の農業が崩壊するのが心配だからです。それに、中国や韓国が安く、品質のよい製品を作れば、日本の工業製品も売れなくなるかもしれません。もし世界が大飢饉になってしまえば、日本は減んでしまうと思います。自分達で、自分達のことをまかなうことができない今、FTA を結ぶことには慎重になった方がいいと思います。＜生徒D＞

【単元】日本経済の「これまで」と「これから」		
月日	学習内容	映像資料
10 月 14 日	◆四大公害 水俣病、チッソ、高度経済成長、新潟水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそく、環境基本法	チッソの謝罪（2分）など
10 月 15 日	◆近年の日本経済 バブル景気、デフレスパイラル、金融危機、派遣切り	
11 月 2 日	◆為替 為替相場、通貨、円高と円安	仁川国際空港（2分）など
11 月 4 日	◆貿易 保護貿易、自由貿易、ブロック経済、WTO、FTA	韓国 FTA 戦略（2分）など

3. 今後の展望

日本と朝鮮半島は「一衣帯水」にある。古代、そこに明確な国境というものはなく、人々は対馬海峡をさかんに往来した。しかしこの往来の中には、豊臣秀吉による「朝鮮侵略」や近代日本における「韓国併合」など、マイナスの側面があったことを私たちは記憶の中にとどめておかなければならない。ただ、このマイナスの側面ばかりを取り上げ、そのことのみに固執することも日韓関係においては不幸である。

本稿は、未来志向の良好な日韓関係を構築するために、社会科教育という視点からどのようなアプローチの仕方が可能であるのかということをまとめようとしたものである。しかしその目的を考えた時、紹介したような授業ではまだまだ十分とはいえない。言い訳がましく申し上げれば、未来志向の良好な日韓関係を構築するためのプログラムを想定した場合、本稿はあくまでもそのプロローグにすぎない。先にも述べたが、私が研修中に体験した「竹島（韓国名：独島）」をめぐる領有権の問題や近代日本における被支配の実相などを、いかに授業の中に反映させていくのが今後の課題である。また、日本と朝鮮半島の往来についてその歴史をふりかえってみた時、近代以前の「蒙古襲来」「倭寇」「朝鮮侵略」「朝鮮通信使」などの扱いも大切である。さらに現代史において、朝鮮半島は「冷戦」を背景にした民族分断の現場であり、日本の安全保障上重要な地である。研修では板門店にも出かけたが、民族分断の現場に緊張するとともに、その現状に複雑な思いを抱いた。2年前、津和野町教育委員会から「中学生海外派遣研修事業」の引率を要請され、ベルリンで2週間ほど滞在した経験がある。幸運にも、2つの民族分断の現場を訪問する機会を得た私には、この経験を授業の中に反映させる責任もある。



板門店

* ネット上での公開ですので、写真を縮小しています。ご了承ください。

ところで、NHK『プロジェクト JAPAN』関連番組の中で、立花隆さん（作家・ジャーナリスト）は現代社会を「第三の鎖国」と称していた。情報こそあふれているが、外の世界に目を向けず、自分で耳をふさぐ人々が日本の社会の中で増えていることに警鐘を鳴らしているのである。社会科に携わる私たちは、自国のことのみに目を向けるような「内向き」の教材研究に固執してはならない。未来志向の良好な日韓関係を構築するという目的のため、外の世界にもしっかりと目を向け、耳を傾ける姿勢を大切にしたい。そして、社会的事象を多様な視点から考察できる生徒を育てるため、着実に授業実践を積み重ねていきたい。

(2009 年 12 月)